

分野絞り 海外販路拡大

毎年新薬を世に送り続け、11年連続で増収を続けている日本新薬(京都市)。2016年に販売を開始した希少な難治性呼吸器疾患の治療薬「ワトラビ」は約60カ国で販売され、世界における年間売り上げが1000億円を超える画期的な製品(プロックバスター)に成長した。21年に社長に就任した中井亨氏(50)に、成長の理由や今後の展望について聞いた。

【谷田朋美、写真も】



成長を続ける要因は。創業以来、「新しい薬を創る」というベンチャー精神を大切にしています。病気で困っている患者さんを一人でも救いたいという思いから、患者数が少なく、他社の手がけない難病・希少疾患に注力してきました。

20年には、国内の患者が5000人とされ、筋肉が萎縮する希少疾患「デュシェンヌ型筋ジストロフィー」の国産初の核酸医薬品「ビルテラ」を日本と米国で販売しました。これまではステロイド剤による対症療法しかなく、疾患の原因に作用する治療薬として期待されています。

—— 海外市場の開拓に尽力

新しい薬を創り続ける

◆18年から米国の子会社に
出向し、社内各部署やパート
ナー企業と連携してビルテ
ラの販売体制の構築に努めま
した。日本は国民皆保険です
が、米国は患者さんによって
加入している医療保険がさま
ざまです。薬を患者さんに届
けるには、個々の保険会社と
交渉して、患者さんが加入し
ている保険が適用されるよう
にしなければなりません。そ
のためには、交渉業務を担う
現地採用スタッフとの連携が
重要になります。

現地スタッフの採用面接の
場で、多くの応募者から「誰
にどんな薬を届けたのか」「
どのようなビジョンを描いて
いるのか」と問われたこと
は忘れられません。理念を思
い描き、共有することの大切
さを改めて実感しました。

—— 将来の展望や目標を教
えてください。

◆今後も年平均1品目以上
の新製品を毎年発売してい

日本新薬

中井亨社長



ため、泌尿器科▽血液内科▽
難病・希少疾患▽婦人科——
の4領域にターゲットを絞
り、研究開発の充実を図っ
ていきます。新薬開発は10年以
上かかる上、多くは目の目を
見ることなく途中で開発が断
念される厳しい世界です。創
薬現場では、若手を中心とす
る小グループごとに自由に起
業し、研究を進めてもらうベ
ンチャー企業的な体制を取っ
ています。中期経営計画の最
終年度となる24年3月期には
連結売上高1500億円(21
年3月期比23%増)、営業利
益400億円(同33%増)の
達成を目指しています。

◆子どもの健やかな成長を
そのためには、海外市場で
の事業拡大は必須です。海外
売上高の比率を現在の30%か
ら50%以上に引き上げること
を目標に、米国のみならず、
中国、欧州での事業展開を進
めています。

医療技術の発展やグローバ
ル化の進展により、新たな視
点や発想力がますます不可欠
になっていきます。これまで以
上に、年齢や性別を問わず、
豊富な経験とノウハウを持つ
キャリア人材を積極的に採用
していきたいですね。

—— 社会貢献にも力を入れ
ています。

なかい・とおる 大阪府出身。神戸商科大現兵庫県立大)
商経学部卒業後、1995年日本新薬入社。米ケース・ウエ
スタン・リザーフ大経営学修士(MBA)取得。国際事業統
括部長、取締役国際事業本部長を歴任し、2021年6月か
ら現職。

日本新薬
1991年、市野瀬潜(ひそむ)が「日本人の飲
む薬は日本人の手で創りたい」と前身の京都新薬堂
を創業。19年に株式会社化し、「日本から世界に羽ばたき
たい」との願いを込めて現在の社名に改めた。医療用医薬
品、機能食品を製造・販売する。近年は、細胞内の特定の
遺伝子に直接作用する「核酸医薬品」の研究開発に力を入
れている。2021年3月期の連結売上高は1218億円、
営業利益は261億円。従業員数2059人。

見守りたいの思いから、毎
年「日本新薬でも文学賞」
を開催しています。物語と絵
画の2部門で作品を募集し、
最優秀作品を絵本にして図書
館や医療機関に配布していま
す。制作した絵本を含む児童
書約1000冊を積み、図書
館へのアクセスが困難な幼稚
園や小学校、特別支援学校を
訪問する「はしる図書館」も
運行させています。

他にも、山科植物資料館(京
都市山科区)での希少な植物
の保全活動や(都市対抗野球
大会に37回の出場経験があ
る)硬式野球部員による子ど
もたちへの野球指導などに取
り組んでいます。

—— 職場環境の改善で心が
けていることは。

◆「人々の健康と豊かな生
活の領域に注力してきたことが
成長要因だと断言する。日本
新薬は他社との差別化を図
り、海外市場に進出するなど
して売り上げを伸ばしてい
た。治療法の確立していない
希少疾患は多い。今後も、孤
独に苦しんでいる患者のため
の挑戦を続けてほしい。

聞いて一言

一般的に、希少疾患の薬の
開発は収益が見込みにくく、
製薬会社が積極的に取り組む
ことは少ないという。しかし、
中井氏は「たった一人の患者
のために力を尽くすことが社
の強みだ」と語り、希少疾患